

| | |
|------------------|---|
| Title | 岩崎英二郎教授業績 |
| Sub Title | Verzeichnis der Veröffentlichungen |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学藝文学会 |
| Publication year | 1988 |
| Jtitle | 藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.52, (1988. 1) ,p.3- 2 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 岩崎英二郎教授退任記念論文集 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00520001-0386 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

業 績

I 論 文

- 願望の mögen の二つの型 「ドイツ文学」第 8 号, 1952
- 話法の助動詞の定義 「糞土」第 1 号, 1953
- 配語法に関する私見 「形成」第 12 号, 1959
- 不変化詞の一つの用例 「形成」第 15 号, 1960
- Äpfel mag ich keine 一格の意識について— 「形成」第 29 号, 1967
- Abtönungspartikeln im Deutschen und Japanischen 「エネルゲイア」第 4 号, 1972
- Er ist Krankheit 一日本語の体言について— 「ドイツ語教育部会会報」第 6 号, 1974
- ドイツ語と日本語の機能動詞 「慶應義塾大学言語文化研究所紀要」第 6 号, 1974
- „Wie hieß er noch?“ Zur Bedeutung von ‚noch‘ als Abtönungspartikel, in: Weydt, H. (Hrsg.): Aspekte der Modalpartikeln, Tübingen, 1977
- Valenzwörterbuch の示唆するもの 「ドイツ語教育部会会報」第 13 号, 1978
- 辞書における特殊な副詞の記述法 「ドイツ文学」第 62 号, 1979
- 〈様態〉から〈心態〉まで —modal なる文法用語をめぐって— 「ドイツ語研究」第 3 号, 1980
- 独和辞典での特殊な副詞の記述の仕方 「日独両語の語彙体系の対照比較」, 1981
- 副詞の再検討 「芸文研究」第 43 号, 1982
- 時に関する副詞的表現 「二言語辞書の意味記述方法の研究」, 1983
- Deutsche und japanische Wortbildungsmuster (千石喬, 新田春夫両氏との共同執筆), in: Kaneko, T. / Stickel, G. (Hrsg.): Deutsch und Japanisch im Kontrast, Bd. 1, Heidelberg, 1984
- 副詞 nur の接続詞的な用法 「ドイツ語研究」第 12 号, 1985
- 独和辞典と心態詞 「エネルゲイア」第 12 号, 1986
- wohl は話法詞か心態詞か 「芸文研究」第 51 号, 1987

II 著 書

- 『分詞・不定詞・話法』(桜井和市氏と共に著) 白水社, 1959
『会話風やさしい独作文』 第三書房, 1966
『ドイツ語の第一歩』 三修社, 1968
『ドイツ語不変化詞の用例』 大学書林, 1968

III 辞 典 (共同編集・執筆)

- 『コンサイス和独辞典』 三省堂, 1966
『ドイツ語不変化詞辞典』 白水社, 1969
『ドイツ基本語辞典』 白水社, 1971
『ドイツ基本熟語辞典』 白水社, 1984
『独和大辞典』 小学館, 1985
『入門独和辞典』 朝日出版社, 1985

IV 翻 訳

- シャーパー「罪なき罪」(Edzard Schaper: Unschuld der Sünde) 中央公論社版「世界の文学」, 第54巻『ドイツ名作集』所収, 1967
ヘルビヒ『近代言語学史』(Gerhard Helbig: Geschichte der neueren Sprachwissenschaft) (共訳) 白水社, 1972
ポーレンツ『ドイツ語史』(Peter von Polenz: Geschichte der deutschen Sprache) (共訳) 白水社, 1974
エガース『二十世紀のドイツ語』(Hans Eggers: Deutsche Sprache im 20. Jahrhundert) 白水社, 1975
ゲーテ「箴言と省察」(Goethe: Maximen und Reflexionen) (共訳) 潮出版社版『ゲーテ全集』, 第13巻所収, 1980